

ミスジチョウは、その学名：*Neptis philyra* の日本産亜種名が *excellens* となっている。このことに関して、江崎禎三校閲、横山光夫著の「原色日本蝶類図鑑（1954,保育社）」には、「種名 *philyra* は「妖精の娘」の名。亜種名は「優秀」の意、これは石川千代松博士の描かれた本種の原因がきわめて優秀であって、本種はタイプ標本に依らず描画によって命名された異例の由緒による。」と説明されているが、近年の蝶類図鑑にこのような裏話的ユニークな説明がないのは残念だ。

幼虫がカエデ類の葉を食べて育つチョウで、発生地は山間部である場合が多く、本種との初の出会いは標高 700m ほどの高知県梶が森登山道：1956 年 7 月、恩師の故岡本盛康先生に引率していただいて初めて本格的な登山を経験したときのこと。山頂部は標高 1400m で、オオミドリシジミやカミキリムシ類が上昇気流によって吹き上げられてきて、辺りの灌木を探索すればいろんな昆虫が見つけれられることを経験した場所だ。

次の出会いは 1975 年 7 月、日光戦場ヶ原と奥鬼怒裏日光で観察しているが、採集はしていません。映像記録として 1989 年 7 月 15 日、兵庫福知溪谷でカエデの高い位置に産卵目的で飛来した本種のメスをかろうじてズームアップでビデオ記録している。今となっては古い機種での撮影記録なので、静止画像として取り込んでも鮮明度が低い。



July 15, 1989

翌年の 6 月に再訪問した同じ場所で採集した個体が手元にある唯一の古い標本。

その後、以下に示すように北海道では数か所で本種を観察できており、特に 1999 年 7 月のチミケップ湖周りでは多数の個体が飛び交う光景に出会えたが、通常、一度に複数個体をみることは少ない。

北海道での観察記録

- July 5, 1999 愛山溪
- July 6, 1999 チミケップ湖
- July 7, 1999 オンネトー
- July 10, 1999 愛山溪
- July 10, 2000 愛山溪
- July 11, 2000 愛山溪

本種は幼虫で越冬するのだが、カエデの枝に枯葉でつくった越冬巣が目立つ形で残るため、その習性を知る愛好家は比較的容易に見つけられるという。なのに、筆者は機会あるごとに注意してみるのだが、これまでに越冬幼虫が潜む巣を見つけたことはない。



June 3, 1990 兵庫福知溪谷
ミスジチョウ ♀



裏面

July 13, 2017 : 最終日も富良野布礼別川林道へ

美瑛を思わせる広大な風景を眺めながら、昨日と同じ林道入口から2日続けての訪問。朝から気温28度の好天気で林道に湿地帯は少なく、車で入れる約1km区間に昨日同様3か所だけ。昨日とは場所が変わっているがエゾスジグロシロチョウの集団吸水が今日も見られる。昨日も見たミスジチョウがこの日は溪流沿いを伝うように飛び、川原の岩の上を転々と移動していくのにつ



いて回る。路面で吸水する個体も複数見る。一番奥の湿地帯は朝からの好天気で吸水場所が少なくなっているが、それでもやってくるのはクジャクチョウ、シータテハ、コムラサキ、コヒオドシ、ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、そして一番多いのがキバネセセリ。